

ぺんだんとは みつからない

立田 優詞

## 【作品概要】

「戯曲とは、何か？」のテーマを考えながら、この作品を執筆致しました。結果、私の目指す戯曲とは、渋谷のハロウィンで目立ちまくるコスプレイヤーみたいなものだなと思いました。何百何千とコスプレイヤーが集まれば、キャラ被りは避けられません。その多くは見覚えのあるお馴染みの衣装に個々が袖を通して、ただに過ぎないのです。ですが目立つコスプレイヤーは、唯一無二の存在です。なぜそんな存在になれるのかと言えば、過去のハロウィンをリサーチして、知識をつけて、敢えて他者と被らないオリジナルで、渋谷センター街に登場しているからです。他にも例えはあると思いますが、そんなコスプレイヤーみたいな戯曲を書きたいと最初に思いました。

過去の素晴らしい戯曲から学び、吸収しつつ、それを土台に見たことのない台詞や世界を作ること、そして誰もが扱う作品のテーマだとしても、誰もがしてこなかった表現で描くこと、つまり何をどう描くかが戯曲においては重要だと信じています。そして、作品の中に細かい設定や感情の動き、台詞の意味を多く記さず、観客の想像力を刺激し、答えを固めず、見えない世界を見る力に働きかけ、もっと広い感動を与えるものが戯曲だと信じています。

と、偉そうなことを言いつつもまだまだ勉強不足の若輩劇作家もどきが執筆した『ぺんだんとはみつからない』は、差別をテーマにした作品です。劇作家に限らず、多くの創作者が取り扱ってきたであろう、普遍的でありながら未だ消えずに残るテーマですが、それを新しい世界に投影することを試みました。この作品の主演はカエルです。このカエルという登場人物が果たして何者なのかを、私は明確にしませんでした。答えを与えてしまうと、この作品の中だけのカエルになってしまうような気がしてかわいそうだったので、有耶無耶という言葉方は悪いですが、素敵っぽく言い換えると、カエルに両翼を授けて、様々な空想の彼方へ羽ばたいて欲しいと思いました。

最後に、「盲目」「メ\*ラ」等の言葉が作品内に登場することがありますが、差別的思考上の表現ではないため、ご了承いただければと思います。

【登場人物】

カエル

北から来たカエル。

女

看護師の女。

男

牛を飼っていた男。

落語家

ホームレス風の落語家。

人間達

人数は問わない、同じ比率の男女。コロスのような役割。

1.

ホームレス風の落語家の周りを、ルーレット上に歩く人間達。

チャリンというお金の音、

その音をきっかけに、落語家が、人間1と2を演じ分ける。

人間達は、落語家の周りに集まり、話に耳を傾ける。

人間1 おい、おっさん。最近どうだよ奥さんとは。

人間2 どうもこうもねえよ、動物で例えるなら犬と猿、沖縄にいれば蛇とマンガース、戦国時代なら上杉謙信と武田信玄さ、おまけに家を追い出されちまったよ。

人間1 察するに、喧嘩によって夫婦仲がよろしくないようだな。だが、塩を送る優しさもまだ残っているようだ。

人間2 おいらなら塩の中に青酸カリを混ぜておきたいね。たまにはおいらが飯をこしらえるつって。パパッと振りかけりゃコロっと逝っちまうさ。

人間1 そんなに恨みの残る喧嘩をしたんなら俺は女房との間にでっかい壁を作るね。うちに転がり込んで来た女房は俺からしたら立派な移民、アメリカの大統領に頼めば二つ返事でノープロBLEMよ。

人間2 大統領みたいな大富豪はおいら達みたいなじじいやばあの話は聞かないだろう。ポーカーフェイスの神対応も、その裏側をめくればおそろくダウトさ。そんなことをされちゃ、おいらの神経も衰弱してブラックジャックでもお手上げさ。

人間1 ……おっさんいつからそんなうまい表現ができるようになったんだよ。

人間2 壁を作る前に政権からバイバイデンとくりゃ俺は怒るぜ、いい加減に七並べ。(礼をして出て行こうとする)

人間1 いや待って待って待って、お後がよろしいようでじゃないんだよ。



人間2 うまいこと言えば帰れるシステムと聞いているが。

人間1 七並べはあまりにも無理やりだよおっさん。

人間2 そうだ思い出した、壁といえれば他に作ってもらいたい壁があるんだよ。

人間1 何だい、その壁はどこに作りたいんだい？

人間2 家と家の間さ、あんたこの街でも一番腕のいい大工だろ？ 聞いている

ぜ、なんでも、向こうの通りにある豪邸、あんたが作ったって、街じゃ  
評判だよ。

人間1 ああ、そうさ。あの豪邸は俺の三十年の努力の賜物つてもものよ。あの家  
の中には兼六園さながらの広い庭と池があるんだ。

人間2 その広い庭にある池が問題なんだよ。兼六園は庭園だがここは住宅街、  
作る場所を間違えればどんなに美しいものもその魅力は半減するもの  
さ。

人間1 おっさん、一体何が言いたいんだ？ 俺が何か間違ったことをやった  
のか？

人間2 あんた、正直に答えてくれ。あの池では、一体何を飼っているんだい？

人間1 鯉と、めだかと、亀だな。

人間2 他にもいるだろ？ 他にも。

人間1 飼っているものはそれだけさ、俺が池に放ったんだから間違いない。後  
のことは自然の摂理、虫が来ようがカエルが鳴こうが。

人間2 それだよ！ それ！ カエルだよ！ あんたも知ってるだろ？ あの  
豪邸の裏側にはおいらの家が立っているんだ。つまり窓を開ければ目  
の前に池が見える。その池に住みついたカエルが毎朝止めどなく鳴き  
続けるんだ、ゲゴゲゴゲゴゲゴゲゴ、おかげで毎日寝不足  
だよ。

人間1 いいじゃねえか、毎朝早く起きられて、健康的な生活ができてるじゃね

えか。

人間2 朝四時半に起こされるんだから、たまったもんじゃない。新聞が玄関ポストに投函されるガコンって音を毎日聞かされるこの気持ちがあんたにはわかるか？

人間1 わかんねえなあ。俺は電子版だからピコンかピヨコンなんだ。

人間2 ピヨコンはたくさんだ、カエルを思い出しちまう。

人間1 そのカエルの鳴き声ってのは、朝だけかい？

人間2 いやいや夜もさ、大体二十三時頃から三時間ぐらい鳴き出すんだ。うるさくて寝られやしない。自然の音は安眠効果があるとはよく言ったものだ。おかげで女房の機嫌も悪くなる一方、朝から晩までゲコゲコゲコ、時にはカエルの鳴き声と女房の怒鳴り声がシンクロするんだよ。この前なんか女房が、酒ばかり飲んでるんじゃないわよ！ 少しは禁酒しなさい！ っっておいらに怒鳴った後にカエルが、ゲコって鳴いたんだ。

人間1 そりゃあ気の毒な話だ。ここら辺一带は十数年前まで田んぼだったんだ、それが埋め立てられて住宅地になった。先祖の遺伝子を持ったカエル達が、戻ってきたのかもしれないな。

人間2 カエルの合唱とはよく言うがこのままだとカエルが繁殖して、しまいにはウィーン合唱団も顔負けの大所帯になっちまう。カエル達には申し訳ないが、あいつらを駆除してもらいたいんだ。今となっては人間が住む街なんだ。それに苦情を言っているのはおいらだけじゃない、近所に住むみんなの総意なんだ。どうにかしてくれねえか？

人間1 わかった、あの家の主人と俺は仲がいいんだ。明日訪ねて聞いてみるよ。ひとまず今晚、おっさんの家に止めてくれよ。カエルの鳴き声の程度がどんなものかを知っておきたい。

人間2 いや、それはよしてくれ。今晚はあなたの家に泊めてもらいたい。

人間1 どうしてさ。俺がいないで、どうして問題が解決するんだよ。

人間2 あなたの言い分は真つ当なんだが、おいらは今女房と喧嘩中で、かえる家がないんだよ。

嘶家は再びホームレスのように、お椀を持ち、金をせびる。

人間達は、離散する。

カエル、傘を持って登場する。

カエルの周りを、取り囲み、歩く人間達。

カエル

人間がカエルに対して訴訟を起こせば、被告の私を弁護するのはカエルということでしょうか？ 便所こおろぎになぞらえて弁護ガエル。ぼつとん便所を法廷にして、原告がゲロつちまえばそれを汲み取って、その汲み取られた裁判記録に顔をしかめて丸呑みできない原告は、無い尻尾をくるくる巻いて、えっこらよっこらヒキカエスってなったら、我々カエルの逆転勝利になるわけです。ですがそんなの全て絵空事、司法は人間のためであり、私の四方も人間だらけ。囲め囲めでかごめかごめ、籠の中の鳥なら羽ばたくこともできますが、カエルに翼はございません。てなわけで囲いで囲まれるで井の中の蛙です。この言葉、おかしいですよ。一見井の中に囲われているようですが、囲うという漢字は井戸の井という字が口で囲われているのですから。（身振り手振りで見客に伝える）。蛙の中の井戸、なぜならカエルはなんでも丸呑みできますから。まあ諺がなければ成り立たないカエルの戯言ですが、俺目線からすればこの矛盾には物申したい。まあ所詮人間様の世界なのだから人間視点で考えたのでしょうか。カエルなんて見えるようで見えないもの。見なくてけっこーコケッコー。

カエル、空に向かって発砲。傘がライフルになっている。

人間達、動きが止まる。

カエル

しかし駆除されかけたら抵抗します。訴訟を起こされたら立ち向かい

ます。この囲いだって飛び越えて行きます。俺の体に翼はありませんが、俺の歌声には翼があります。そして（叫ぶ）コケコッコー！ はい、羽ばたけないコケコッコーに翼を宿すこともできます。（ロミオのように）歌の軽い翼で、あの囲いは飛び越えましょう。そしてあなたの止まり木に着陸させた途端、鼓膜にビブラートを響かせ、脳幹にこぶしを振りかざし、感情をしゃくり上げて見せましょう。

音楽が流れる。

カエルの歌声と音楽に合わせて、ダンスをする人間達。

かごめかごめを歌うカエル、歌詞を変えている。

リズムに合わせて人間達を一人ずつ射殺していくカエル。

カエル 囲み囲まれ（射殺）、籠の中の鳥は（射殺）、いついつ出やり（射殺）、  
いついつ出会う（射殺）、夜更が長い（射殺）、ツルツとお金が滑った（射  
殺）、

殺されずに生き残った人間二人、それが女と男。

カエル 後ろの少年（銃声\*）牛飼少年（銃声）

\*パンパンパンパンの銃声。

男は出ていき、女はカエルの真後ろ。

カエル 後ろの少年（銃声） 捜索少年（銃声）

女 ……

カエル 後ろの正面だ、あ、れ。

カエル、傘ライフルを女に向ける。

殺された人間達は起き上がって、カエルのように出ていく。

女、カエルに近づく。

女 ……

カエル ……

女 ねえ。

カエル ゲコ。

女 ペンダント知らない？

カエル ……

女 ペンダント、知らない？

カエル ゲコ。

女 どこ？

カエル ゲコ。

女 どこ？

カエル ゲコ。

女 あなたは一軍のカエル？

カエル ？

女 一軍のカエルと戦力外通告された女、どっちの格が上なの？

カエル ……知りません。

女 喋った。

カエル はい。

女 ……じゃあ、トイレの水と田んぼの水、どっちが美味しいと思う？

カエル ……知りません。

女 また喋った。

カエル はい。

女 ……カメムシに会ったことある？

カエル 知り合いにカメムシやってるやつはいます。最近あんまり連絡とつけないですけど。

女 カメムシと潰れた銀杏なら、あなたはどっちが臭いと思う？

カエル 俺は、カメムシやってるやつと知り合いなんで、そいつの匂いは慣れてますけど。銀杏って秋じゃないですか？ 俺冬眠の準備で業者呼んだり栄養蓄えたりで忙しいんで、あんまり外出しないですよね。

女 そう。

カエル すいません、お役に立てず。

女 どうしてそんなに喋れるの？ もしかしてカエルの格好をした妖精なの？

カエル カエルにお呪いがかかって妖精みたいになってしまった、という言い方が正しいのかもしれないね。決して妖精ではないのですけど。

女 あなたはどこから来たの？

カエル 誰も近づけない北の惑星です。

女 北朝鮮から来たの？

カエル その方がまだいいかもしれません。政府の視線がそのまま弾丸になりますけど、それさえ逃れれば、脱北入北が可能ですから。

女 あなたの故郷にはどうして近づけないの？

カエル 見えないお化けがたくさん潜んでいるからです。

女 私好きよ、恐怖映像とか。

カエル それは一瞬の出来事だからです。俺はお化けと生活をしているのですから。

女 靈感のあるカエルなんて、珍しいわね。そのお化けにお呪いをかけられたのかしら。

カエル お呪いと呪いは紙一重ですね。

女 お化けと生活をして、何をするのか？

カエル お化けの駆除をしているのです。いつ俺がお化けに取り憑かれるのか、取り憑かれた先にあるものは何かに怯えながら、禁止区域の惑星でストレスと不安を抱えて最前線で戦っているのです。

女 同居人を追い出そうとしているのかしら。

カエル 俺なんかと話してたら、友達に嫌がられますよ。

女 どうして？

カエル 戻ってカエル嫌い多いじゃないですか。

女 老けたかな。

カエル え？

女 JCよ。

カエル ……見えません。

女 見えない？

カエル はい。見えません。

女 そう。

カエル JCのお友達のところに戻った方がいいんじゃないですか。

女 いいの。見えないから。

カエル JCに？

女 うん。見えないから。

カエル そうですか。

女 だから私は探すの、ペンダント。私が私を探しそうになるから私が代わりにペンダントを私だと思って私が探すの。私が私を見失って私が私



だと認識できない私になりそうだから。

カエル 渋滞してますよ、私が。

女 いいの。私専用の道だから、公道じゃないみたいだから。

カエル 他の乗用車は走らないんですか？

女 お金を払ってまで走ろうとしないわ。私が代わりにお金払っても走らないだろうけど。

カエル 緊急車両は通りますか？ 消防車や救急車は。

女 救急車には私が乗ろうかな。

カエル あなたが運転するのですか？

女 将来看護師になりたいの。

カエル ……

女 患者に歌を歌って元気になってもらいたい。

カエル 歌ですか。

女 好きなの。

カエル ……はまりましたか？

女 はもれるの？

カエル ええ。歌を歌いたいのでしょう？ 患者に。それはどんな点滴や手術よりも効果のある特効薬ですよ。それに俺がはもれば効き目は倍になるかもしれません。

女 ……

カエル パフィーも顔負けのカエルと「C」のデュオです。そこに楽器はいりません。スピーカーもマイクも不要です。

女 へえ。その調べはどんなもの？

カエル 調べてみても出てきません。

女 観客はいるの？

カエル 路上ライブです。ほとんどの人は見向きもしません。

スマホを持った人間達が続々と出て来る。

カエルと女の周りを交差していく、

もしくはルーレット状に回っていく人間達。

カエル ほらご覧なさい。盲目の患者達が先入観を右目に、知らんぷりを左目に携え、十数万本のアンテナを働かせて稼働しています。両目を司る器官の名は鵜呑み、よれよれのアンテナはまるで烏合の衆、懐疑のセンサーが何一つ作動しないなら、つるつばげの方がまだいいかもしれない。

女 そのアンテナが役に立つことはあるの？

カエル ええもちろん。同じ両眼、同じアンテナ、同じ器官を持つ患者を引き寄せ引き合い結びつき、その共鳴に応じたもの同士で同盟を組むのです。もしくは患者が携える盲導メカ犬、鋭い嗅覚を持ち合わせたメカが膨大な骨を加えて患者に提供します。それらは全てスカスカの骨、骨密度の無い脆い兵器、ですがそれをぶん投げて戦争を起こします。

女 弱い武器なら勝てないんじゃない？

カエル いえ、むしろ圧倒的完勝です。密度のない骨は使い捨ての手榴弾のようなものです。患者連合軍が小さな一国にたくさん骨を投げてボコボコにするだけなのです。

女 そんな軍隊を相手に戦う術なんてないわね。

カエル だから歌うのです。

女 歌われるの間違いじゃない？ レクイエムは勝者からの最後の手向け。それを自分で歌う敗者はいないわ。

カエル そんなものは挽肉と豆を煮詰めてトルティーヤで包んでしまえばいい。

口から出れば鎮魂歌でも、呑み込んだじゃえばチリコンカンです。

女 鎮魂歌もチリコンカンも血がつきものでしょ？ 本流から外れた血の量が鎮魂歌を盛り上げていくように、血みどろのトマトがチリコンカンの味を引き立てていくの。

カエル そんなに血を欲するならチングスハンにでもなればいい。チングスハンは鎮魂歌を歌いながらチリコンカンを作った偉大な血塗れシェフです。大量の血をぐつぐつ煮込んでモンゴル帝国を作り上げたのですから。数多の具材を血で浸して一人でチリコンカンにしてしまった彼を見習えばいいじゃないですか。

女 チングスハンは飲食店を一人で回していないわ。たくさんアルバイトや社員がいたから帝国を築けたのよ。

カエル チングスハンはワンオペじゃないんですか？ ワンオペではお店回しませんか？

女 そうよ。例えばカエルさん、空に向かって石を投げたことはある？ その一石は弾丸ではなく燃料にすぎないの、速度を早めて私に返って来る。同じようにワンオペで大敵に逆らうことは神に逆らうようなもの、気まぐれの神が振りかざす刀は切先から刃区（はまち）まで切れ味があるの。

カエル それなら傘をさせばいいじゃないですか。（と、傘を広げる。）

女 神の機嫌が悪い時にね。

カエル 満面の笑みが向けられていても、あなたは傘をさしていますよ。傘をさしていれば神はあなたを見ることができません。ビニール傘ならかろうじて神の視界にあなたが入るかもしれないが、使いで舞い降りた天使達は、傘さしてんのかよっ！ って驚くのも束の間、石突き（傘の先）に頭突きでたちまち串刺し、天使の串焼き、神の気まぐれ雨水ソースの

一丁あがりってわけです。でも俺には見える、あなたの足元にいるのだから。傘をさしていてもあなたのことが見えるのです。

女 ……

カエル でも人間は俺のことなんて見ない、だから見てもらえるように歌を歌うのです。俺の歌は鳥になり、俺よりも高いところに飛ばたい人間を見ます。人間はその鳥を見上げることもあれば見下げることでもあります。するときつと、誰かがその鳥の飼い主に気が付くのです。だが気づいた頃には靴の裏、鳥を飼うカエルを踏んじまったんだからその靴をトリカエルか？ ってね、はっは。

女 ……口が達者なカエルね。

カエル 言葉があればいいのです。メロディーなんていりません。

女 ……

カエル 俺のことが信じられませんか？ カエルなのに？

女 プライドがすこぶる高いのね。カエルなのに。

カエル 志が高ければプライドも高いのですよ。

女 あなたの志は何？

カエル 被告代理人と呼べる人を作ることです。あなたもそうでしょう？

女 ……

カエル さあ、歌いましょう。戦いの火蓋は、開けたてが一番熱いのです。

カエルは、傘を使ってダンスをする。

時計の針の音、カエルの鳴き声と共に、女は歌い出す。

人間達は、女に注目し、止まる者もいれば、去っていく者もいる。

歌の途中で、徐々に暗転していき、暗転下の声だけになっていく。

女

ペンだんとすね

おまじのなごペンだんとすね

おまのなごペンだんとすね

たせしなまのなごすね

せいたらにみつけなまからけなごすね

ペンだんとみじかりせしね

がうじすね

わたしだらじょうぶなごすね

うじみえてあしがなごすね

おまじのなごペンだんとすね

ペンだんとみじかりせしね

おまじのなごすね

あまたおまじのなごすね

しじだらたおまじのなごすね

おまじのなごすね

おまじのなごすね

おまじのなごすね

ペンだんとみじかりせしね

おまじのなごすね

おまじのなごすね

おまじのなごすね

おまじのなごすね

ぜんぶ ぜんぶ みえませんね

あのいちようは ほんものなのではないかね

まねるものば しんじられませんね

したにおちた つぶれたものが

ほんもの いちようなきがしますね

おなじ かんじを つかうのにね

おばあちゃん だいたいようぶですか

いつかすてきな ペンだんと

みつかるそうですね

明転すると、カエルは消えている。

人間達は、スマホを持って動いている。

時計の針の音はまだ続く。

女

時間が、足の速い私と互角の勝負を繰り広げていく。でも私、短距離は速いけど長距離は苦手なのよね。

徐々に人間達の動きがスローになっていく。

女

そして私は、給水ポイントで時間と共に立ち止まり、二人っきりの時空間が出来上がった。

時計の針の音が止まる。

人間達は動きを止める。

女

その瞬間だけ、時間が私に寄り添って、息の上がった私の口元に、悲しいキスをした。私から流れた汗が涙の軌道を辿っていく。その潤いを共感する間もなく、時間は涼しい表情で走り去っていった。

人間達は普通に動き出す。

女、着替える。

着替えたシャツには赤い染みがついている。

カエル、人生ゲームを持って入って来る。

女

歌ったわよ、私。

カエル

……あなたに一万円と、職業カードを。

女

(受け取る) ……あなたはどこに行ったの？

カエルは出ていく。人生ゲームの前に座る女。

3.

女の周りを回る人間三人、この三人を「女人間」とする。

後に登場する男、彼の周りを回る三人を「男人間」とする。

人間達が回るタイミングは、特筆しない。

★がある箇所は、女がルーレットを回す。

☆がある箇所は、男がルーレットを回す。

女

人生ゲームってどうして成人してからの人生なのでしょうね。十数年の学生生活は、一体どこに消えて行ったのでしょうかね。盲目の少年少女と共に過ごした青ざめた時代。卒業後もその盲目が留年するのであれば、この人生ゲームを作ったのは、都合の悪いあの頃をデリートしたいメ\*ラエリートなのもかもしれませんわね。このゲームでも私の青春は、目には見えないものとして、無いものとして、当然のように扱われるのでしょうかね。

おもちゃの車に人形を乗せて、ゲームを始める女。

★

女人間 歩行者が邪魔なのにクラクションが鳴らせない、二千円払う。

★

女人間 テレビの占いで最下位になる、二千円払う。

★

女人間 コートの虫食いを見つける、二千円払う。

出ていく紙幣を見つめる女。



女

……このお金はいつたい、だれのどこに払っているのだろう。どこがだれに活用しているのだろう。描かれた偉人達は何を見て自分の行き先を決めているのだろうか。彼等の視覚を奪うものが彼等の家なのであれば、許婚を婿の元へ向かわせる母に私になって、地図を書き、財産を持たせ、向かうべき場所へ向かわせるのだろうか。単に彼等の視覚がバグっているだけなら、真空の家に閉じ込めておきたい。彼等の目的地の決定権を彼等は誰一人持っていないのだから。親離れを嘆く子供達として育て上げ、自宅監禁の御触れを出し、その拘束力でステイホームの根性を叩き込み、悪党が流通する社会とのご縁から遠ざけておきたい……でも、御触れなんて有って無いようなものよね。節制しても出ていくものは出ていくのよね。

男、女の元に近づいていく。

男のシャツにも赤い染みがついている。

男

今はいつですか？

女

挨拶をしてみてはいかがですか？

男

今はいつですが、私に残された唯一の挨拶です。

女

生まれ変わったら、Helloの住人になりたいものですね。

男

あなたも時間に置いていかれたのですね？

女

ええ。仮に挨拶が日常の始まりと終わりを決めるのであれば、私たちはこの世とあの世の狭間にあるどこでもない場所をただ彷徨っているだけに過ぎないのかもしれない。

男

それは困ります。それでは、挨拶ができない私たちの存在というのは、証明が不可能ではないですか？

カエルの鳴き声が聞こえて来る。

女 おそらく、二十三時ごろです。

男 こんばんは。聡明なあなた。

女 ……私は聡明ではなく透明です。存命しているかも当然分かりません。それはあなたが決めていいのです、あなたの法律はあなたなのですから、あなたの判決を下す裁判長もあなたです。

女 ですが、自国の軽犯罪も、他国では死罪になることがあります。

男 ……

女 自国には見えても他国には見えないものがあります。

男 ……そうですか。

女 自国では戦禍の英雄でも他国ではただの人殺しに。

男 ……

女 自国ではバージンでも他国ではヤリマンに。

男 ……

女 いつからこの車線が一方通行になったのですか？

男 違います。道が機能していません。……人間の舌が何枚もあればいいと思っています。そして心の中に倉庫があるなら、その中からあなたにぴったりの言葉を選び出し、音に乗せ、いくつもの舌を走ります。

女 そうすれば、効率よくあなたの元に言葉を届けられるのに。

女 備蓄された言葉を運ぶ専属の運転手は老いぼれです。語られない言葉は歳をとり、専属運転手も共に老いるのです。そして、言葉が相手に衝突しても、運転手は自分の非を認めないのです。

男 語られない言葉が暴言になるわけではありません。年季の入った言葉

が必ずしも人を傷つけるものとは限らないし、それに運転手は私自身です。

女 同じことです。若かろうが年寄りだろうが、言葉を操縦する運転手は、使い捨ての車を何台も持つ当たり屋です。衝突を何度も繰り返し、また次の車を用意するのです。そしてあらゆる方法で衝突させるのです。それを受ける私たちは、どんどんボロボロになっていきます。いいですよ、運転席にはエアバックがあつて。

男 では私とあなたを繋ぐ一本の道は、衝突事故の真っ只中ですか？

女 人生ゲームしませんか？

男 ……

女 人生ゲームなんて所詮走馬灯のようなものです。そこに余計なお喋りは無用です。そして一方通行だから正面衝突はありません。

男 玉突きがあるかもしれません。

女 私にはありませんが、あなたにはあるかもしれませんわね。

男 あるようでないようなものです、アクセルを踏んでもブレーキが作動するかもしれないのです。

女 インポなのですか？

男 いえ、ちゃんとアウポだと思えます。

女 ちゃんとアウポってなんですか？

男 すみません。ですが、私のエンジンルームの巣窟には、呪文がかけられているのかもしれませんが。

女 ……

男 このルーレットを利用するのですか？

女 ええ。この板の上では、あなたの人生や言葉が歳をとることはありません。あなたの足跡を辿るだけですから。

男 この手一つで過去を見られるのですか？

女 何も驚くことはないでしょう？ 指がたった一本あるだけで、知らない誰かに致命傷を与えて、退屈を消費できるぐらいですから。

男、女の向かいに座り、おもちゃの車に人形を乗せる。

☆

男人間 車が黒毛和牛にぶつかる、二千円もらう。

女 ……

☆

男人間 猪に遭遇する、三千円もらう。

女 ……

男人間 その際、猪が猪を食べている瞬間を見る、追加で二千円もらう。

女 サファリパークの跡地にでもいらっしゃるのかしら？

男 ちがいません。

女 ……

☆

男人間 セイタカアワダチソウの群れに遭遇する、二千円もらう。

☆

男人間 家畜の豚が散歩しているところに出会う、二千円もらう。

☆

男人間 餌箱に首を突っ込んだままの餓死した乳牛に出会う、二千円もらう。

女 ……

男 餓死していた乳牛の育ての親は私です。車から見えた子供達の体は全て黒い模様で覆われていて、そのひとつひとつが、死神の僕である数千のハエだと分かりました。死骸に集う僕たちは、与えられた使命をまっ

とうし、真面目に忠実に死肉を啄んでいました。子供達への供養の手段は、その光景から目を背けないことだけでした。

……

☆

しかし、信号機とはせっかちなものです。左目の充血も束の間に、私より先に、右目から涙を流すのです。私は子供達へのさよならを天使に託して、目的地に向かいました、二マス進んで、二千円もらいます。

……保険に加入できるようですが。

保険の活躍を先導するのは犠牲です。犠牲による風穴を隙間なく埋める保険があるならば入りますが、その穴を塞ぐアイテムは所詮紙切れ。突風はいつ吹き荒れるのかなんてわかりません。台風が去った後も、依然風は強いのですから。

ですが、突風を隙間風程度には抑えられるかもしれませんよ。

その隙間風は思い出のそよ風に変わりますか？

今後あなたのもとに時間が訪れる予定があるなら。保険はそれを補助する役割に他なりません。

……

男、保険カードを取る。

あなたは保険に入らないのですか？

ええ。

時間はもう死んでしまったのですか？

先にいきました。

……

女 あなたのような方のもとへ、私の子供達を送ってやりたかったです。  
男 望まぬ家に入るのですね？

女 あなたの言葉を借りて言うならば、ちがいません。家を出た彼等の向かう先は樹海同然。情報の大自然が彼らの足跡を消し去り、消息を断つのです。

男 ……ですが、このゲームには足跡がくつきり残っていますね。次はあなたの番です。

★  
女 人間 退院した方からお礼で饅頭をもらうが、自分が饅頭を食べられないことがどうしても言えず、笑顔でいただく、二千円もらう。

男 看護師なのですか？

女 ええ。

★  
女 人間 お局看護師が私に文句を言う、二千円払う。

男 二千円がチャラになっちゃいましたね。

★  
女 人間 知り合いのおばあさんが発熱外来に来る、三千円もらう。

男 どういったご関係ですか？

女 ペンダントを一緒に探したのです。

男 そうですか。

★  
女 人間 病棟を移る、一万円もらう。

男 ……

女 お局に言われたのです。候補の人はもう一人いたらしいのですが、その人シングルマザーの人で、シングルマザーに移ってもらうのは、流石に

あれでしょって。シングルマザーは子供がいるわけだしあれでしょって。一人暮らしのシングルマザーじゃないあなたの方があれでしょって。防護服もあるしマスクもあるしかっぱもあるからあれでしょって。かといって私もシングルマザーだからあれでしょって。

男 ……

女 シングルマザーという主語と、あれでしょという婉曲表現が組み合わせられれば、空気読んでコロナ病棟行け、という意味になるようです。

男 ……あなたの人生に血が流れているならば、源流は違えど、海に向かって支流を辿れば私と出会うかもしれません。もしくは私と同色の血。

女 流血の交差点で出会っても、振り向けば積み石を崩す鬼です。

男 私はその鬼を、まだ見ないことにします。畜生の叫び声も、餓鬼の雄叫びも、私は穴という穴を全て塞いで体内に入れないようにします。あなたにも、しばらく、そうしていてももらいたいです。

女 塞いだところで、入るものは入るのです。

男 ……

☆

男 人間 「日本のためにありがとうございます」という横断幕を見つける、四千万もろう。

女 戦時中のような文言ですね。

男 事実、私は兵隊でした。あなたも兵隊でした。お互い、白い甲冑を身に纏った英雄です。

女 ……

男 日本を守る英雄ですが、その凱旋は寂しいものです。

☆

男 人間 線量の多い場所で作業をする、一千万もろう。

☆

人間 線量計アラームの警告音がなくても作業を続ける、二万円もらう。

☆

人間 被曝量が上限に届きそうになったが、新年度にリセットされたため、次の年も現場で働くことができる、五万円もらう。

女 ……

男 私は、子供ができたら言おうと思うんです。父ちゃんは、せんとういん

として、うちゅうせんに乗って、誰も近づけない大きなわくせいに行つて、そこにはびこる見えないお化けと戦ったんだって。そのお化けは、強くてなかなか倒せない。たいほうをはっしゃしても、マシンガンをもつても、せんしゃでも、せんとうきでも、倒すことができない。でも父ちゃんはそんな敵に、命がけで立ち向かったんだって。国のために、こきょうのために、父ちゃんはずっと、戦い続けたんだって。

男 ……それは……

人間 パパー、学校でほーしゃのーって言われたんだけど、どういうことー？

男 ……

女 私には分かります。

☆

人間 ペンダントのおばあさんに陽性、四千元払う。

☆

人間 若いお母さんに陽性、四千元払う。

☆

人間 若いお母さんの娘が、ママを助けてと院内で泣き叫ぶ、二千元払う。

☆



女人間　ペンダントのおばあさんが、私みたいな老いぼれは後回しにしてくれとすがりつく、一万円もらう。

男　……

女　ここでもらえるのは二千元ぽつきりですか。まあ日本の医療なんて前から崩壊してましたからね。人口と医者の方が釣り合っていないから長時間労働なんて当たり前なんですよね。リスクとリターンのバランスおかしいですよ。その現状でも国は医療費あげないんですよ。お年寄りに、私なんかは後回しにしてって、死にそうになりながら言わせる国なんですよね。

男　……

女　そのおばあさん、大事そうにペンダント持っていました。ああ、見つかったんだって思ってたんだって思ってた。

男　……回します。

☆

男人間　階段を往復して二十キロの鉛板を運ぶ、二万円もらう。

☆

男人間　熱中症で作業員が倒れるところを見る、二千元もらう。

☆

男人間　高線量の水を浴びる、二万円もらう。

☆

男人間　フォークリフトで作業員が指を切断するところを見る、三千元もらう。

女　プラス四万五千円ですか。

男　ええ。

女　その対価は、あなたが晒されたリスクと同価値ですか？

男　お金ではありません。誰かのために誇りを持って働いたのです。だから

ら、子供ができたなら胸を張って、私がやってきたことは何かを言いたいのです。

女 見えないお化けと戦ったと、ごまかして言うのですね。それはなぜですか？

男 ……

女 パパー、ほーしゃのーって机に書かれてたんだけど、どーゆーこと？

男 やめてください！ あなた、言葉の事故を起こしたくないと言いましたよね？ あなたは当たり前ですか？

女 ……すみません。

男 ……

女 ……もしも私に子供がいるのならば、多分、私もあなたと同じことを言うと思います。

★ ……一万円払って一回休み。

男 何があつたのですか？

女 察してください。

男 ……はい。

女 私もあなたと同じくこの仕事に誇りを持っていました。お給料が少な  
くても休みが少なくても家に帰れずに病院に寝泊まりすることが続い  
ても、きつと国の役に立っている、誰かを守るために仕事をしていると  
いうことだけを支えに、文句ひとつ言わず頑張ってきました。でも世の  
中って残酷ですよね。

★ 何も言わない女人間、マスクを一斉につける。

女 家の窓ガラスを割られ、修理する、三千円払う。

★  
何も言わない女人間。

女 ネットの書き込みを見つける、三千円払う。

男 ……

女 私は子供ができて、職業を明かさないのでおこうと決めました。むしろ

私は、子供を産んではいけないと思いました。子供ができたら、学校で  
いじめられるんじゃないかって思うからです。いろんなことを想像し  
てしまいうんです、私がそうだったから……。学校から帰ってきた子供は、  
おそらく私には何も言わないんです。でも私は見つけてしまいうんです。

カッターとかで文字を掘られたランドセルとか、ボロボロになった体  
操服とか、破られた教科書とか、折れた傘とか、アザになった体とか。

運動会とかも、私足が速かったんです、だから子供も足速いかなって思  
うんです。でも徒競走で一位になっても、多分誰も、すげえな、速いな、  
息子さん速いですね、すごいですねって言ってもらえないんです。それ  
で子供は友達と一緒にじゃなくて、私と二人でお弁当食べるんです、二人  
にしては広すぎるテントの下で、二人でお弁当食べるんです。でも子供  
は言わないんです。ママと一緒に食べたかったから嬉しい、お弁当すご  
く美味しいよって言うんです。そしたら私も、そっか、嬉しいよって言  
うんです。一位すごいねって私だけが子供に言うんです。子供も、あり  
がとって、私だけに言うんです。

男 ……

女 子供ってそういうこと、親に言えないんです。言ってしまったら、子供  
の中で大切な何かを失うんです。子供にとってそれは、いじめられてい

ることよりも辛いんです。何かを失うことの方が辛いんです。命を落としてでも守ろうとするものなんです。助けてって、言えないんです。私、赤ちゃんが産まれたときに泣いてるのを素直に喜べません、看護師だったのに喜べません。私にはその赤ちゃんが、この世でこれから生きていくことを悲しんでいるように見えるからです。だから、親にはなりません。子供は産みません。

男 ……そしてあなたは、母になる特権とともに、時間にも別れを告げるのですか。

女 ……

☆ 何も言わない男人間、一斉にマスクをつける。

男 他県で車に傷をつけられる、六千円払う。

☆ 何も言わない男人間。

男 近所の住民に、うつさないでねと言われる、二千円払う。

女 ……

男 このゲームは、リタイアすることができません。

女 ……

男 苦しくても、ルーレットを回し続けなければいけません。

女 ……

男 あなたの走馬灯ドライブ、助手席はまだ空いていますか？ あなたの  
もつと過去を私に見せてください。

女 このゲームにこれ以上の過去はありません。

男 過去はお喋りなんです。恋に目覚めた手付かずの少女が、秘めた恋心を友人に打ち明けるように。ですが今はせき止められた水、水位が上がるばかり、あなたがゲートを開けば、過去の喉から一千リットルもの言葉が溢れ出します。

女 流れることを忘れた水は汚染されているかもしれませんが、あなたにとっては有害な。

男 構いません。私はその水をすでに浴びています。物理的にも、先ほどあなたの口からも。

女 ……すみません。

男 それに有害な水は、大海においては一滴の滴なのです。

カエル、新しい人生ゲームを持って入って来る。

カエル、男と女の目の前にある人生ゲームを取り替えて、出ていく。

女 ……

男 0歳からの、人生ゲームです。

女 ……ええ。

女が進めるおもちゃの車、男は自分の人形を女の車に乗せる。

★

女人間 私が生まれる、相手から一万円もらう。

男、女に一万円を渡す。

男 回してください。

女 はい。

★

女人間 徒競走で一位になる、千円もらう。

男 その頃の千円は嬉しいですよ。

★

女人間 算数のテストで九十五点を取る、九五〇円もらう。

男 百円単位になるのですね。

★

女人間 近所の人に元気よく挨拶をする、五百円もらう。

男 ……

★

女人間 中学に入学する、二千円もらう。

★

女人間 好きでもない人に告白される、三百円払う。

男 支払うのですね。男性ならもらえるのかもしれない。

★

女人間 おばあさんが荷物を落として、拾うのを手伝う、五百円もらう。

男 さっきのおばあさんですね。

女人間 だが、ペンダントが見つからない、二百円払う。

男 その時は見つからなかったのですね。

女人間 同じクラスの人が手伝いに駆け寄ってくれたが、断る、二百円払う。

男 優しいお友達ですね。

女人間 さらに、いちよう並木を歩いていたらため銀杏を踏んでしまう、二百円払う。  
う。

男 踏んだ銀杏って臭いですもんね。

★  
人間達、全員出ていく。

女 銀杏臭いとクラスの人に言われる、千円払う。

男 ……

女 その際、靴底にびっしりついた銀杏を、地面に擦り付けてと取ろうするが、取れない、追加で二百円払う。

男 ……

★  
女 学校中で銀杏臭い噂が広まっていく、二百円払う。

★

女 給食の配膳をしていると、カレーに銀杏の匂いがうつると言われる、二百円払う。

★

女 トイレの水を飲まされる、二百円払う。

★

女 教科書が接着剤によって開かない、三百円払う。

★

女 靴の中に潰れた銀杏がびっしり入っている、四百円払う。

男 ……

女 その際、ペンダント探しを手伝おうとしてくれたクラスの人と目が合う。

男 ……

女 その人は、何も言わず、ごまかしの苦笑いを私に向けて、去っていく、五百円払う。

男  
……

女、車の助手席に乗っている男の人形を、男に返す。

男  
……

女 私、人間界のウイルスです。太陽のような言葉を私にかけても、その優しさにつけ込んで瞬殺することができなのです。私の意志とは正反対の無数の私が、その人の百回りも二百回りも小さくなり、地獄の門の敷居を土足で踏み入ります。おはよう、こんにちは、こんばんは、私にとつては全て殺害予告です。それに応じた人は私に感染し、私の分身になるのです。そして、私と同じ扱いを受けるのです。

男 ……あなたの前に、太陽は現れたのですか？

女 病院からのメールに記された太陽は、半分欠けていました。その陽には、妖精のお呪いがかけられていて、暖かくはありませんでした。

男 ……

女 私の分身がどうかの話をしておいて、そんな人誰一人いなかったんです。もはや草ですよ、草。それ超えて森、それ越えて花みたいなの？

花咲いたときには実際に花添えられてる状況みたいなの？ そんな花も

焼き焦がしてしまう喪服に袖を通した太陽すら現れないみたいなの？

お葬式も、棺に自分で入って、自分の好きな漫画とかお酒とかを入れて自分で蓋閉めて……その前にお線香を束にしてマイクに見立てて一人でお経歌って、お経のサビをロックみたいに歌って、木魚をドラムみたいに叩いてお焼香のやつ花吹雪みたいにはらまいて、どうもありがとうっ！ て言いながら自分で熱狂の火葬場に入るのでしょね……まあ無観客ですけどね、配信もアーカイブもない無観客ライブですけど



男 …… 一人で歌って笑って……

女 ……

男 ワクチンでも打ちますか？

女 何のためのワクチンですか？

男 私の抗体を作るためのワクチンです。一回で済みます。二度と会わないのですから。

女 …… 必要ありません。

男、再び女の車に自分の人形を乗せる。

女 ……

男 私はあなたのライブチケットを買います。ライブパフォーマンスはど

この葬儀場で行われますか？ 火葬場にある屋台は薫製とかバーベキ

ューがおすすめですか？ 物販は遺骨拾うところですか？ となると、

アーティストだし、喉仏の骨はプレミアで値が付きますか？

女 ……

男 それか、バンドでも組みますか？

女 バンド？

男 ええ。キング・ヌーも顔負けの、看護師と原発作業員のツインボーカル、そこに楽器はいりません。拡声器もスピーカーも不要です。歌うのは葬

送曲でもお経でもありません、未来を生きる軍歌です。

女 ……

男 私とあなたの交響楽団、私とあなたのロックバンド、私とあなたの連合軍です。私は声を上げます。共にタイムスリップをしましょう。時間を捨てた場所から拾うべき場所へ。あなたも声をあげるのです。

女 捨てたものはそこで役割がなくなります。

男 捨てる行為があるからこそ、捨てる行為が伴うのです。その逆はありません。落としたからといって、捨ってはいけないというルールはありません。

女 ……

男 人生のピリオドなんて、ピストルのシリンダーに込めて弾丸にしてしまえばいいのです。そのたった一つの丸い弾丸は下克上の名乗り、やあやあ我こそは！ ピリオドは撃つべき場所に撃つのです。その後は言葉が弾丸へ変わっていく！ 共に奏でましょう、私たちの演奏は、この銃声から始まるのです！

男、手で銃を作り、空に向かって発砲する。

医療機器アラームと線量計アラームが重なっていく。

人間達、たくさんの骨を持って入って来る、

そして歌い、男と女の声が聞こえなくなっていく。

男と女、声を張る。

人間達、男と女に向かって骨を投げる。

男、人間達に手銃を構える。

女 私の弾丸は、もう尽きました。放つ気力もありません。

男 聞こえませんか！

女 私は軍神マルスと契約を破棄したのです。

男 ピストルをその手に取ってください！

女 あなたは聴覚をどこに忘れてきたのですか？

男 今の私の耳に弱い音は聞こえないのです。さあ、ピストルを取ってください

さい。共に戦いましょう！ 軍神は、あなたが棺桶に入っているから見え  
ないだけです。蓋を開けてください！ あなたとマルスは向かい合  
う鏡の世界そのもの、あなたがピストルを持てばマルスも瓜二つのピ  
ストルを持つのです。だが今は神の恩恵を受ける必要はありません。あ  
なたが自然に逆らえば、遠くで弧を描く大地よりも先に、私の姿が見え  
るのですから。さあ、そのピストルで、先入観の右目には懐疑の弾丸  
を！ 知らんぷりの左目には思いやりの弾丸を！ 空砲でも構いませ  
ん、撃ち続けるのです！ 弾丸はいつか、盲目を打ち破ります。その両  
銃創こそ希望の双眼鏡、湧き立つ血は愛の同族、桃色の膿はマグマの兄  
弟、いずれ熱を冷まして消えていくのです。そして悪の中で密かに寄生  
する光の細胞が、静寂の眼球を涙と共に成形し、高潔たる両眼を誕生さ  
せるのです。それは偽りの眼ではなく、義を司る眼！

人間達の歌声が大きくなっていく。

男

まずはピリオドを！ あなたが記した場違いの最期をシリンダーに込  
めて、見えない遠くに放つのです！ そしてあなたの言葉は弾丸！  
あなたの心は弾薬庫！ 喉には火薬、思いは引き金！ 舌は弾道！  
照準を決めれば銃口を向けるのです！

女、ゆっくりと立ち上がる。

男

外れても構いません！ 私が援護射撃をします！ とにかく撃ち続け  
るのです！ あなたが生きている限り、弾丸は無限にあるのですか  
ら！

女、手銃を作る。

男

さあ、奏でましょう！ 私たちの軍歌を！ 放たれた歌は、天国の門を叩くのです！ その音色は、決して小さくはない！

遠くから救急車のサイレンも重なっていく。

そのサイレンとともに、男と女を取り囲み、動く人間達。

男と女は、人間達に紛れ、見えなくなっていく。

時折聞こえる男の発砲による銃声。

ピーポーピーポー

救急車が通りまーす 道を開けてくださーい

ピーポーピーポー

救急車が通りまーす 道を開けてくださーい

ピーポーピーポー

病床数が足りません 乗らないでくださーい

ピーポーピーポー

医者数が足りません 乗らないでくださーい

ピーポーピーポー

重症でないなら重症になってから 救急車呼んでくださーい

ピーポーピーポー

作業中に倒れたことを 上に報告しないでくださーい

ピーポーピーポー

高線量区域がかなり減りましたー コストを削減しまーす

プーザー プーザー

労働環境改善アンケートです

こまごまチェックするので、絶対に封はせずに提出してください

people people

スーパーには 来店しながらください

people people

電車には乗らなうってください

people people

私たちの街には来なうってください

people people

無視しながらください

people people

気づいたらください

people people

このってください

people people

またってください ……

people people

あとってください ……

people people people people people ……

サイレンに紛れた声が消えていく。

医療機器と線量計のアラーム音、救急車のサイレン、その三音が次第に

大きくなる。

女が手銃を空に向けると、人間達は目を塞ぎ、怯え、叫ぶ。

全ての音が最高潮に達した瞬間、女は発砲。

人間達の動きは止まる。サイレンもアラームも止まり、静寂が訪れる。

人間達は、バタバタと倒れる。

一人の女人間と目が合う女。

女 ……あなた。

女人間 ぺんだんとは、見つかった？

女 ……

女人間 ぺんだんとは、見つかった？

女 ……まだ、見つからなくて、いいんじゃないかな。

4.

落語家、人間1と2を演じ分ける。

人間1 僕、僕。

人間2 なんだよおっちゃん。

人間1 一体どうしたんだい、迷子なのかい？

人間2 ううん、母ちゃんが買物してるから、ここで時間を潰してるんだよ。

人間1 そうかい、じゃあ今暇なのかい？

人間2 なんだよおっちゃん、平日の真昼間からあたいに話しかけてくるなんておっちゃんまさか不審者？

人間1 そんなこと言うなよ。暇つぶしに、一つ面白い話をしてやるよ。

人間2 なんだよおっちゃん、平日の真昼間から赤の他人のあたいとお話したいなんて、おちゃんまさか無職？ 逆に聞くけど、今暇なの？

人間1 かわいくないガキだね全く。

人間2 いいこと教えてあげようか。

人間1 ああ聞いてやろうじゃねえか。

人間2 失業者向けに、駅前で相談会や物品提供、炊き出しをしていたから、おっちゃん行ってくれば？

人間1 だから無職とは言っていないだろう？ そんな話をしたかったのかい？

人間2 こんなはまだ序盤だよ、この後の話、聞きたい……？

人間1 そこまで言われちゃ聞かない訳にはいかないだろう。

人間2 そうだよな。じゃあ、お小遣ちよーだい！

人間1 へ？

人間2 何おっちゃん、ただでこの後の話を聞けると思ったの？ 今のは予告

みたいなものだよ。じゃあおっちゃんは映画見る時も舞台見る時も、お金を払わずに本編を見る人なの？ 罪悪感を抜きにして海賊版の恩恵を受ける人なの……？

人間1 ガキのくせに生意気だなあ。

人間2 おっちゃん、これは商売だよ？

人間1 ああ、もう、わかったよ、ほら。

人間2 へへ。

人間1 ガキのくせに、真田小僧の話を知っているのかい？

人間2 さつきからガキのくせにって言うけど今となってはSNSやインターネットで情報が手に入りやすい時代なんだから知ろうと思えばなんでも知れる社会なんだよだからガキだろうがおじいちゃんおばあちゃんだろうがおっちゃんよりも物知りはたくさんいるしなんなら賢い猿ならAmazonでポチッとすれば物が買える時代だよおっちゃんが持っている先入観や固定概念を崩していかないと社会の本質には迫れないよ。

人間1 口の回るガキだねえ。まあいいや、話の続きっていうのを聞かせてくれや。

人間2 ああいいぜ、まあ話の続きっていつでも話はここで終わりだしこれと言ったオチもないんだ。

人間1 てめえ小僧、大人を騙しやがったな！

人間2 違うんだよおっちゃん、聞いてくれよ。あたいはただ、駅前で炊き出しや物品提供をしていることに疑問を感じてそれを誰かに共有したかっただけなんだよ、だからおっちゃんが話しかけてくれて本当は嬉しかったの。

人間1 ……可愛らしいところもあるじゃねえか。どれ、一つ僕が思ったことを聞かせておくれよ。



人間2 へへ、いいぜ。人ってさ、基本見栄っ張りでかっこつけだろ？

人間1 急に辛口じゃねえか、続けてくれや。

人間2 そんな人目を気にする人間がさ、あんなに人のうじゃうじゃいる駅前  
で、炊き出しを求めに行くと思うかい？ それでもしその施しを受け  
れば、公開処刑みたいにならないのかい？ 自分が金に困っています  
って大衆に大声で言うようなもんじゃないのかい？ 提供する側はポ  
ランティアのつもりでやっていても、それが自己満足に終わってしま  
うことがあるんじゃないかな？ 人助けっていうのは表面上の問題を  
解決することに目が行きがちだけど助けるべき人の心をまず知ってい  
なければできないもんじゃないのかな？ ねえどう思うおっちゃん、  
あたいの意見に対抗論破もしくはフォローアップさらにはそれに派生  
したおっちゃんの別のお話ができるようなら聞いてやってもいいよ？

人間1 なんだよその言い方は、かわいくないガキだね。大人を舐めちゃいけな  
いよ。

人間2 舐めてなんかいないよ。対等だと思っているからお話もしたし意見も  
求めているんだよ。そうじゃなきゃおっちゃんなんかシカトして、料理  
人が厨房でチャーハン作ってるだけのYouTube見てる方がまだマシだ  
よ。

人間1 ……いい意見だと思うよ、僕。おっちゃんから言うことは何もないよ。

人間2 へへ、聞いてくれてありがとう。おっちゃんの話も聞いてやってもいい  
ぜ。

人間1 聞かせてくださいだろ、全く、一筋縄ではいかない子だね。

人間2 おっちゃんの話はどんな話？

人間1 おっちゃんの話はね、カエルの話だ。

人間2 ……いいや、どうせつまんなそうだから。

人間1 待ってくれよ、さっき僕が言ったことだろ？ 先入観がダメなんだって。

人間2 ……そうだね、聞かせておくれよ。ここ最近鳴き声がうるさくて問題になっっているカエルの話かい？

人間1 そうさ、あの人間対カエルの裁判、どっちが勝ったか知ってるかい？

人間2 知らない、どっちが勝ったの？

人間1 カエルが勝ったんだよ。カエルの鳴き声は自然の音だって認められて、彼らは自分の居場所を守ったんだ。

人間2 そうなんだ。じゃあカエル達は駆除されずに済んだんだね。

人間1 そうさ、彼らはずっと鳴き続けた、どんなにうるさいと言われても、煙たがられても、自分たちはここにいるんだって、鳴いて訴え続けたんだ。その声がどんどん大きくなって、彼らは自分の居場所を勝ち取ったんだな。

人間2 鳴くのはカエルの習性だけだね。

人間1 夢がないね、僕は。でもな、おっちゃんは感動したんだ。声を上げ続ければ、きっと誰かがわかってくれる、見てくれるんだって。そこに恥じらいや後ろめたさなんか関係ないんだ、自分が生きていく道なんだから。人目を気にせず、自分の欲求に従ってまっすぐに突き進むっていうのがいいんだ。おっちゃんも、カエルを見習わなきゃいけないと思った。カエルの鳴き声だけでよくそこまで思考が回るね、すごいねおっちゃん。

人間1 ああ、だからおっちゃんは、あのカエルのようになろうと思う。ちなみに、炊き出しをしていたのはどこの駅前だい？ おっちゃん並んでくるよ。

人間2 隣町だよ。おっちゃん、炊き出しもらいに行くの？ てことはやっぱ無

職なの？

人間 1 認めたくないが、そう言うことだ。

人間 2 やめときなよおっちゃん、あんな人の大勢いるところで炊き出しに並んだら、恥ずかしい思いするかもよ。

人間 1 言っただろ？ おっちゃんはカエルみたいになるんだって。おっちゃんが勇気を出して炊き出しに並べば、金に困っている奴らがそれに続いて並ぶかもしれない。

人間 2 おっちゃん、他の人に白い目で見られちゃうかもよ。

人間 1 白い目なら何も見えないさ、黒い目があるから物事が見えるんだ。おっちゃんを白い目で見るやつに、おっちゃんの本当の姿はわからないさ。僕には、おっちゃんの姿が見えるかい？

人間 2 うん、見えるよ。おっちゃんの目も、黒いよ。

人間 1 どうしてそう言えるんだい？

人間 2 迷子に見えたあたいを心配して話しかけてくれたから。最近多いよね、不審者に間違われるのが怖いからって、あたいまいたいな子をシカトして通り過ぎる大人達。それに比べたらおっちゃんはいいい人だよ。黒い目がちゃんとついてるよ。

人間 1 ありがとな、僕。そんな僕に、一つお願いがあるんだ。

人間 2 なんだいおっちゃん？

人間 1 おっちゃん今お金がないんだ、さつき僕に渡したお小遣い、おっちゃんの交通費にして隣町に行って炊き出しを食に行きたいから、おっちゃんのお話代として、そのお金ちょうだい。

5.

カエル、傘をさして一人。

人間達は、カエルの周りを歩いている。

カエル ……

そこに、先ほど女と目が合った人間がカエルに近づく。

人間 ……

カエル ……？

人間 ペンダント知らないですか？

カエル ……ゲコ。

人間 ここに落ちてるはずなんですけど。

カエル ……ゲコ。

人間 ……どこですか？

カエル ゲコ。

人間 知ってるんですか？

カエル ……探しているのですか？

人間 喋った！

カエル 話しかけたのはあなたでしょう？

人間 カエルの手も借りたいぐらいなの。カエルにもすがりたい思いなの。

カエル 猫や藁みたいに言わないでください。

人間 ペンダント見ませんでしたか？

カエル この辺初めて来たんで……ちょっと。

人間 どこから来たカエルですか？

カエル 北からペタペタ来たカエルです。

女人間 どうやってここまで来たんですか？

カエル 北上気流に喧嘩を売って、日本のボスまで辿り着いたのです。

女人間 何のために喧嘩を売るんですか？

カエル 英雄が英雄として故郷に帰り、英雄として今後も生活を送るためです。

女人間 英雄の生活って？ なんでも思い通りになる生活ですか？

カエル いいえ、人並みの生活です。

女人間 ……

カエル 俺は、曇った目ん玉をくり抜いてクリアな目ん玉に付け替えてやる眼  
医者になりたいんです。人間は俺から言わせれば下等生物です。下等の  
くせに下が見えないんです。下等のくせにさらに下等を作ろうとする  
んです。そして下等の作る貨幣にも目がない、二つの意味で目がない、  
どちらも見るための目はあるのに見ようとする目がないのです。

女人間 ……

カエル 下等の殿様は家来の扱い方を知らないのです、見るべきところを知ら  
ないのだからどこに派遣すべきかも知らないのです。だからとりあえ  
ず楽しそうなところに家来を派遣するのです。祭りだ祭りだ！ 騒げ  
騒げ！ ってね。そのおかげでこの国は、お呪いをかけられた幽霊病棟  
に成り下がっています。少ない医者と膨大な患者を抱えた赤字病棟で  
す。

女人間 ……私は医者ですか？ 患者ですか？ それとも死んでいますか？

カエル あなたは医者ですと俺が言えば、あなたはそれを信じますか？

女人間 カエルの言うことは、多分信じないと思います。

カエル はい。自分で決めてください。

女人間 はい。じゃあ私はペンダントを探してきます。

カエル そうですか。

女人間 同級生がペンダントを探している音が、ここから聞こえたんです。

カエル ……

女人間 私も探します。

カエル 〇のお姉さん。

女人間 はい。

カエル 見つかりそうですか？

女人間 見つからないのであれば、その同級生と一緒に探します。

カエル ではこれを。(と、傘を渡す)

女人間 ……雨、降ってないですよ？

カエル ええ。

女人間 ……ありがとうございます。

女人間、傘を持って出ていく。

カエル、ポケットからペンダントを出し、どこか遠くへ投げる。

終。

【参考文献等】

- ・片山夏子、『ふくしま原発作業員日誌 イチエフの真実、9年間の記録』、朝日新聞出版、二〇二〇年。
- ・永幡嘉之、『原発事故で、生きものたちに何が起こったか。』、岩崎書店、二〇一五年。
- ・本田宏・和田秀子、『日本の医療崩壊をくい止めるー「コロナ渦の医療現場」からの警鐘と提言ー』、泉町書房、二〇二一年。
- ・ウイリアム・シェイクピア、『ロミオとジュリエット』、松岡和子訳、ちくま文庫、一九九六年。
- ・ウイリアム・シェイクピア、『リア王』、松岡和子訳、ちくま文庫、一九九七年。
- ・『コロナ診療 根強い差別』、『読賣新聞』、二〇二二年四月一九日、朝刊、二七頁。
- ・『隣家の池のカエル、鳴き声耐えられない』と訴え…東京地裁「自然音」と請求棄却』、『読賣新聞』、二〇二二年四月二四日（オンライン）、<https://www.yomiuri.co.jp/national/20210424-OYT1T50045/>。
- ・落語『真田小僧』、立川只四楼、二〇二二年四月十日、独演会。

【補足資料】

- ・二〇二二年四月十二日。徳島県某病院勤務看護師（匿名）メールインタビュー。